

令和6年11月25日

南箕輪村議会議員 様

提出者名 都志今朝一

議員研修・議員視察結果報告書

研修名または視察テーマ	第19回長野県地方自治政策課題研修会
研修・視察実施場所	第一・二委員会室 オンラインによる研修
研修・視察の期間	令和6年11月12日（火）
研修・視察の成果等	地域の防災・減災力をどう底上げするか？ ～産官民の役割について考える～ 講師 山口大学大学院創成科学研究科 瀧本 浩一氏 まず最初に、地域防災・減災活動・訓練にかかわる課題については、向上部分で進んでいる部分と遅れている部分の対比の説明があり、次ぎに災害への向き合い方～強化すべき防災・減災活動の位置付け～については、形だけの防災活動・訓練からの脱却の必要性を謳われいた。検討した対応を現場での検証が必要。続いては、意識持続の持続の難しさの中では、自主防災の維持を考える。では、活動をやり過ぎると危険。会長交代、マンネリ化人材不足・などにより活動停止状態になり、活動再開は困難になる。自主防災活動の維持を考えると、持続のために地元行事と防災活動とのマッチング作業を行う、どんど焼き時に消化訓練・餅つき大会では、避難所運営名簿チェック訓練などでのマッチングしている例も上げた。次ぎは、防災人材育成のための研修内容の質について、行政は育成する防災人材育成像を持っているかを問い、単に防災リーダーや防災に関わる民間資格取得者の数だけ増やしても遊兵をつくるだけであると指摘している。次ぎに、学校と地域との連携、小中学校の運動会での防災競技を通じて保護者や地域との連携を促進、運動会種日の中に防災競技を1、2つ取り入れるなど、児童・保護者・地域住民が防災拠点（学校）で訓練（競技）が出来る。最後に水災害から生活を守る備えと、先人からのメッセージ、災に備える教訓4つで締めくくっている。何時何処で起きる災害に対しても対応出来る体制を持って居たい。

※研修・視察終了後、議長または委員長が定めた期日までに提出すること。